

じょうこうじ

掟光寺だより

令和4年
4月号

行事案内

●4月9日(土)
「宗祖報恩講」

13時30分から



仏教たとえ話

【ラーフラとタライの水】

ラーフラとはお釈迦さまの息子になります。お釈迦さまは元は一国の王子さまでしたので、ラーフラは国王の孫にあたります。ラーフラは幼くして出家をし、最終的には悟りを得ました。お釈迦さまの弟子もたくさんいますが、その中のトップは「十大弟子」と称され、ラーフラもその中の一人に数えられました。今回の話はラーフラ(羅侯羅尊者)がまだ悟りを得ていない幼い頃の話。ラーフラは9

歳から出家し沙弥として修行を初めました。沙弥とは20歳未満でまだ子どもの仏弟子のことであり、ラーフラが歴史上最初の沙弥と言われています。

ラーフラは幼い頃から粗暴な性格で、他愛無い嘘をついて人を騙し、それを見て喜ぶところがあつたそうです。



ある日、ラーフラが他愛ない嘘をついて、人々が右往左往している様子を見て楽しんでいたということがお釈迦さまの耳に入ります。

お釈迦さまはラーフラの元にやってくる何と知らないラーフラは喜んでお釈迦さまを迎え、敷物を敷きます。お釈迦さまはそれにお座りになると「ラーフラよ、タライに水を汲んで来て足を洗ってくれないか?」と頼みました。ラーフラはいいつけ通りにタライを持つ

てきて、お釈迦さまの足を洗い終わると、お釈迦さまが尋ねられました。「ラーフラよ、おまえはこのタライの水を飲むことができるか?」と尋ねます。ラーフラは「とんでもございませぬ。洗う前はきれいな水でしたが、お釈迦さまの足を洗ってしまったので、垢に汚れてしまい、もはや汚れて飲むことはできませんと答えました。」



するとお釈迦さまは「その通りだ。ラーフラよ、おまえも国王の孫として生まれながら、世を捨てて仏弟子となったが、精進を忘れ、口に嘘をついていれば煩惱が胸に満ちてしまい、この汚れた水と同じで元に戻ることはできないのだ」

次にお釈迦さまはラーフラにタライの水を捨てさせます。そして、「ラーフラよ、このタライの中に食べ物を入れて食べてみる。ラーフラは「いいえ。一度でも不浄なものを入れたタライには、食べ物など口にするものを入れることはできません」と答えました。

お釈迦さまは「そうであろう。そなたもこのタライと同じである。口に誠実さがなく、精進しなければ、煩惱が身につく、新たに正しい教えを容れようと思っても容れらなくなるのだ」

今度はお釈迦さまはタライを蹴とばしました。お釈迦さまは「ラーフラよ、タライが壊れるか心配したか?」と聞かれました。ラーフラは「いいえ、安いタライなので壊れても困りませぬ」と答えました。

お釈迦さまは「おまえもこのタライと同じように、口に誠がなく精進しようしなければ、誰からも気にされず惜しまれることなく、苦悩しながら朽ちてゆくのである」などとお釈迦さまからコンコンと説教を受けてラーフラは自らのしたことを深く恥じ、これまでの不誠実を反省しました・・・という話。

口は災いの元。

悪い言葉や悪い口の行いを積み重ねるとやがて身体にもころころにも身につくのです。口は慎み、誠をつぶやくことが肝心です。

